

### 3 仕事を続けやすい環境づくり

#### (1) 勤務形態の多様化の促進

多くの女性獣医師は、出産・育児等と両立できるなら、職場が近くなら、短時間なら、仕事を続けたいと考えており、ライフステージに応じた短時間勤務、ワークシェアリング等の多様な働き方を認め、助け合うことが提案されている。そのために、雇用者に多様な働き方の受入れを促すこととともに、働く側の希望と雇用者側の希望をマッチングさせるきめ細かい仕組みづくりが必要である。

ポータルサイトの人材募集ページ（日本獣医師会ホームページの求人情報と同じ）は、地域、職種、職域、雇用形態、休日等の条件検索ができるが、さらに、よりきめ細かい条件等の検索ができるよう、掲載時のフォーマットに改良を加える等の改良が必要であるため、担当委員会に検討を依頼した。また、シンポジウム、獣医学生向けセミナーにおける小動物診療分野の講師らから紹介された、多様な働き方、ワークシェアリングの優良事例、ワーク・ライフ・バランスを大切にした働き方等の事例（動画）をポータルサイト（e-ラーニング）に公開した。

#### ○ 今後の課題

今後、男性の育児、介護等への参加が一層進めば、女性獣医師だけでなく男性獣医師も短時間勤務等多様な働き方を希望するケースが増えることが予想される。受け入れる雇用者側の対応を促すことは急務である。特に、小動物診療分野では、雇用者側に「わかっているが実施できない」という考え方が根付いており、変わっていくべきという発信に対して「理屈はわかるが不可能(無理)」という声が多い。小動物診療分野の短時間勤務等のワークシェアリング（オーダーメイドの働き方、タスク・シェアリング、タスク・シフティング等）の導入については、ある程度の基準を設け、基準を満たせばマークが取得でき、求人情報に表示できるといったような仕組みづくりも含め、地域の獣医師会において具体的な検討を進めることが望まれる。その検討のために、シンポジウム、学生セミナーで使用されたパワーポイント、動画を活用されることを期待する。優良事例、成功事例等を、引き続き積極的に紹介していく。

## (2) 出産休暇・育児休暇が取りやすい環境の整備等

出産・育児休暇等の制度を職場への支障や気兼ねなく利用できるようにするためには「休暇中には代替獣医師が来てくれることがあたりまえ」にすることが必要であることが、いずれの職域においても強く指摘されてきた。

代替獣医師の確保の円滑化のために、日本獣医師会が獣医師人材バンクを設置することが求められている。

人材バンクを設立するには職業紹介業の許可を得る必要があるため、職業紹介責任者講習会を受講し、日本医師会の女性医師バンクの運用状況の調査等を行ったが、専属の担当者を配置する等の対応が難しいとされ、検討の結果、当面難しい、との結論に至っている。

人材バンクを設置した地方獣医師会の取組事例等の具体的な内容を各地方獣医師会へフィードバックしたほか、定年退職者、再就職希望者を登録する何らかの仕組みを作る可能性についても検討した。

また、相談体制、情報の提供も必要であり、仕事と子育て等の生活を両立している身近なロールモデル、気軽に相談できる相談者の存在が重要であることから、ポータルサイトのロールモデルを充実させるとともに、相談体制の強化についても検討を行った。

## ○ 今後の課題

人材バンクを正式に設立することは、当面難しいとされたが、引き続き検討を続けるとともに、代替獣医師確保のための他の方策も検討することが必要である。

全国、各職域の定年退職者、再就職希望者（子育てが一段落した者、短時間勤務希望者等）に、広く登録してもらい仕組みを構築できないか、また、この仕組みと改善された求人情報を組み合わせ、マッチング情報システムのように運用することができないか等の検討を粘り強く続ける必要がある。そのためには、子育て中でフルタイムの就業は無理だが短時間なら勤務したい、長く離職していて自信がないができれば勤務を再開したい、等の希望を持つ獣医師とそのような多様な働き方を受け入れる雇用者とのマッチングが進むよう、まず、ホームページの求人情報において、よりきめ細かい条件等の検索ができるよう、掲載時のフォーマットの改良等を、早急に本格的に進める必要がある。